

品川女子学院

私立中高一貫女子校として「社会で活躍する女性を育てる」との創立理念を掲げ、2014年からは文部科学省による「スーパーグローバルハイスクール」に指定された品川女子学院。同校では、約1,280名の生徒のほぼ半数がアカウントを持ち、中でも先生方や205名の高校2年生全員がEvernote Businessを学校生活で利用するなど、Evernoteを軸にした情報共有とコミュニケーションが広がっています。



教科解説のコンテンツ公開を Evernote Business で実現。 今後は教員のスキル共有と学校組織全体のナレッジ強化も目指す



タブレット時代に備えて 情報プラットフォームを検討

ブックや生徒会役員間の共有ノートブックなどがここに加わっていきました。

若手教員の指導力アップにも Evernote Business を活用

Evernoteの利用が始まった2カ月後の2013年12月にはEvernote Businessの採用も決まり、その第一弾として管理職およびITスキルの高い先生方10名がEvernote Businessアカウントを取得しました。

「Evernoteに保存される情報量が増えたことに加え、生徒によるタブレットの活用状況を見た上で、まず教員が試してみる事が重要だと考えました。そこでEvernote Businessを使って、職員会議の資料などをEvernoteで閲覧するところから教員同士の情報共有を開始したのです。資料印刷の手間が省け、事務処理の負担も減りました」（酒井先生）

さらに約半年後の2014年5月には、Evernote Business導入の第二弾として、高校2年生全員への導入も行われました。現在は約200名の生徒がEvernote Businessアカウントで、今後に向けたさまざまな活用方法を試みているところです。

これらの成果や用途の拡がりを踏まえて、今後検討されている活用方法の1つに「若手教員への指導スキル伝達と自己研鑽を促すツール」としての活用が挙げられます。これはEvernote Businessを利用して、まだ若く指導経験の少ない先生のために知識の伝達やスキルの共有を推進しようという構想です。

「教員の仕事は、指導や教材研究など1人で行うことが多く独善的になりがちです。そこで、ベテラン教員の指導ノウハウやアドバイスなどをEvernote Businessを通じ

品川女子学院の教育目標である「28プロジェクト」には、女性にとってさまざまな節目となる28歳になった時に、それまで学んだことを活かして社会に貢献できる人間を育てようという同校の教育コンセプトが込められています。

「当校がIT教育に力を入れているのも、そうした社会人としての重要なスキルを身につけさせようという教育方針の一環です。中学1年時と高校1年時にはそれぞれ『情報』の授業が設けられています。また企業とのコラボレーション総合学習の場では、社会人の方々と相手にプレゼンテーションを行ったり、CM制作を通じてPCを利用した動画編集を体験するカリキュラムもあります」と語るのは、品川女子学院 生徒会部長 情報科主任 酒井 春名先生です。

同校が初めてEvernoteを導入したのは2013年10月。それまでも校内では、PCやモバイルから利用できるクラウド・プラットフォームの検討を重ねてきたと酒井先生は明かします。

「まもなくやってくる『タブレット1人1台時代』に備えて、そのためのプラットフォームを探していました。さまざまなサービスを比較検討したのですが、そのほとんどはあらかじめ決められた使い方を強いられる印象がありました。それに比べてEvernoteは、白紙の状態から始めて自分たちの工夫で思い通りの使い方ができる点が良いと感じたのです」

まず最初に先生と生徒間の共有ノートブックを1つ立ち上げ、先生から生徒への連絡事項などに使い始めました。その後は順次、生徒同士が利用するクラス共有ノート

品川女子学院

<http://www.shinagawajoshigakuin.jp/>

事業内容：「社会で活躍する女性を育てる」という創立理念のもと、社会に貢献できる女性の育成に努めている私立中高一貫女子校です。生徒の28歳をイメージして組み立てられた「ライフデザイン教育28project」を特徴とし、社会と関わり合いの深い実践的な教育を行っています。

導入時期

2013年12月

導入前の課題

- ▶ タブレット1人1台時代に備えたプラットフォームを検討
- ▶ 使い手のニーズに合わせた自由度の高いツールが欲しい

選定理由

- ▶ 特定の用途に制約されない、自由度の高い機能とデザイン
- ▶ 教員間の情報共有・活用に有効な機能と情報容量の大きさ

導入効果

- ▶ 教員と生徒、生徒間の情報伝達とコミュニケーションの活性化
- ▶ 若手教員への指導ノウハウの伝達と能力向上
- ▶ 教科解説コンテンツの公開による生徒の学習環境の改善
- ▶ 生徒間の情報共有の促進

「動画コンテンツによる教科解説の提供など、生徒がより自主的・効率的に学習を進められる環境が着々と整備されつつあります。また今後は Evernote Business 上に指導のノウハウを蓄積して、若手教員へ知識やスキルを伝達し、共有する仕組みも実現したいと考えています」

— 品川女子学院 生徒会部長 情報科主任 酒井 春名 先生 —

Evernote Business 導入前の課題

- 1 タブレット時代の到来に備えたクラウド・プラットフォームが必要だった
- 2 特定の用途にとらわれず自由に使えるツールが欲しい
- 3 個々の教員の知識やスキルを共有化したい

Evernote Business 導入後の利点

- 1 教員個人の能力の共有と学校組織全体のナレッジ強化を促進
- 2 教育現場のニーズや実情に即した自由な情報活用が可能に
- 3 iPadなどのタブレット利用による情報活用やペーパーレスが実現

Evernote Business の実際の利用画面



で共有することで、若手教員のスキルアップを図り、学校全体の指導力向上につなげようと考えているのです」(酒井先生)

資料の共有から始まった Evernote Business の利用に、今後はこうした指導力向上のためのサポートツールとしての側面が加わっていくことは確実です。

「デジタルシラバス」がクラウドによる自習環境を実現

一方、生徒の間でも着実に Evernote の利用は進んでいます。たとえば生徒同士が利用する「クラス共有ノートブック」は導入後まもなく、毎年1月に開催される合唱祭の練習に活用されたといいます。実際に利用した生徒の1人は、「冬休み中の練習スケジュールを Evernote に上げておき、クラス全員が家から予定を確認できるようにしました。またソプラノやアルトなどパート別の連絡や、その日の練習の反省などもすべて Evernote 上で行うことができました」と振り返ります。

さらに生徒会役員の1人は、Evernote を使うようになって議事録の活用が進んだと語ります。

「会議中に Evernote 上で議事録を作成すると、他の人もすぐに自分の端末からそれを確認することができます。出席者がその場で議事録を見ながら会話を進められるので、話題が脱線せずに活発な議論ができるようになりました」

今後は議事録や資料などを Evernote 上に蓄積していくことで、役員が代替わりしても後輩が以前の資料を素早く参照できるようになるといった期待も生まれています。さらに、「2014年5月からは高校2年生の生徒全員に iPad mini が貸与され、さらに使用用途の拡大が期待されます」と酒井先生は付け加えます。

もう1つ、Evernote は指導 / 学習環境にも大きな変革をもたらしました。同校では年間の学習計画を「デジタルシラバス」としてまとめ、Evernote 上に保存・共有しています。このデジタルシラバスには、先生方が各自で制作して YouTube にアップロードした教科の解説動画もリンクされており、これが多くの生徒の予習・復習に役立っていると、酒井先生は語ります。

「教科によっては、繰り返し見ることでより深く理解できるものがあります。実際の授業で教わった内容を Evernote 上のコンテンツで復習したり、逆に動画で予習してから授業に臨むことで学習効果を上げるといった仕組みが実現できています。そういった点で Evernote は、リアルとデジタルを連携させるのに最適のツールだと感じます」

先生方も生徒から受け取るコンテンツへの反応をもとに、さらに解りやすくして学習意欲を促すための工夫を凝らすなど、教える側のモチベーションが向上し、さらにその成果が生徒へフィードバックされるといった好循環が確立されつつあります。

Evernote Business を軸に学校全体の指導力強化を目指す

酒井先生は今後 Evernote Business を軸に、先生方が持っている知識やスキルを集約していきたいと展望を語ります。

「職員室には、教員個人のレベルでとどまっているすばらしい知識や能力がまだまだあると思うのです。今後はそうしたそれぞれのノウハウや努力の成果を Evernote Business に集約してシェアすることで、学校全体の共有財産としてお互いに活用していける基盤を構築できれば、生徒にとっても教員にとっても嬉しいことだと考えています」

また、もともと Evernote には、個々の蓄積情報を関連付けることで予期しない発見やひらめきを呼び起こし、単なるデータをナレッジにつなげていくという特性があります。そうした意味でも Evernote Business は、学校運営に新しい連携や視点を生み出せるツールではないかと期待を語る酒井先生。若い女性の未来を育む同校の指導を、新たな情報共有・活用のためのツールが力強く支えていきます。

(2014年5月取材)



品川女子学院
生徒会部長 情報科主任
酒井 春名 先生

導入についてのお問い合わせ

Evernote Business の担当者へのご連絡をご希望の方は、専用フォームよりお問い合わせください。 <http://evernote.com/intl/jp/business/contact-us/>
Evernote に関するお問い合わせは、サポートページからお願いいたします。 <http://evernote.com/intl/jp/contact/support/>
Evernote Corporation, 305 Walnut Street, Redwood City CA 94063 USA

<http://evernote.com/intl/jp/business/>